資料３

“吉田川”流域治水の取組

【“吉田川”流域治水の取組】 流域治水の取組に係る職員研修会（大崎市）

目的：気候変動による豪雨災害が頻発化・激甚化する傾向の中，河川管理者だけでなく，流域のあらゆる関係者が一体となって取り組む流域治水について、市職員の理解を深め、知識習得の機会として開催したもの。

- 令和４年１２月２７日に大崎市地域交流センターで流域治水の取組に係る職員研修会を開催。
- 大崎市長、副市長はじめ総務部、市民協働推進部、産業経済部、建設部、農業委員会、上下水道部、各総合支所等の職員４０名以上が参加。
- 研修会では、北上川下流河川事務所 石田事務所長が講師として「“みず”から守る,吉田川流域治水」について講演。
- 講演では、「流域のあらゆる関係者が協働して取り組む“流域治水”」や吉田川「命と生業を守る流域のサポートについて」で目指すもの等について説明を行った。
- 講演後には、法定協議会や流域水害対策計画に住民や自治体の参画の仕方などについて参加した市役所職員と意見交換を行った。
- 市役所内の多くの部署が参加し流域治水についての理解を深めたとともに、市が取り組む水害に強いまちづくりの更なる推進に繋げることが出来た。

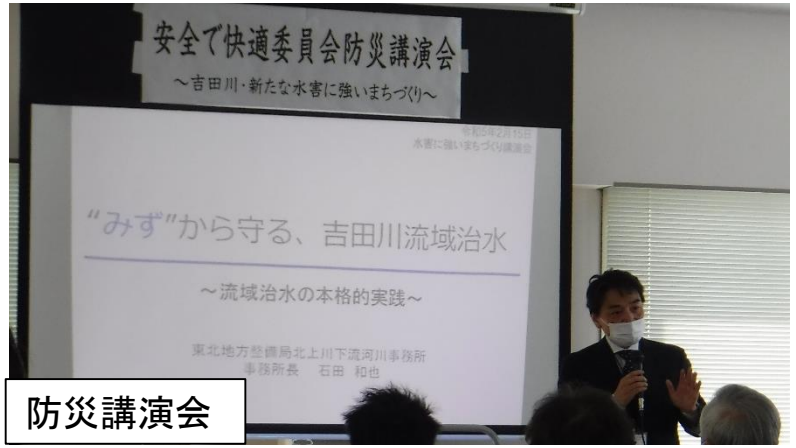
研修会当日の様子

北上川下流河川事務所　石田事務所長

【“吉田川”流域治水の取組】 研修会等での流域治水に関する講演

令和5年2月　2日：令和4年度農業農村技術研修会（宮城県主催）
開催場所：TKPガーデンシティ仙台勾当台
参加者：宮城県、自治体、コンサルタントの農業関係職員の約140名
令和5年2月15日：防災講演会（鹿島台まちづくり協議会）
開催場所：志田谷地防災センター
参加者：約50名
講演内容：水害と闘い克服してきた吉田川流域の歴史と吉田川で目指す“流域治水”のあり方について

農業技術研修会



防災講演会

農業技術研修会

防災講演会

【“吉田川”流域治水の取組】 姥ヶ沢地区　流域治水パトロール

・ 日時　　令和5年3月8日　14:00～16:00
・ 場所　　姥ヶ沢集会所
・ 参加者　　約40名
（地区住民、大崎市鹿島台総合支所・上下水道部・建設部、鶴田川沿岸土地改良区、北上川下流河川事務所）
・ 当日の工程　事前説明、姥ケ沢雨水排水ポンプ及び県道16号道路嵩上箇所、山王江排水路等の現場視察
視察後に意見交換会を開催。

現場視察箇所

事前説明

意見交換

【“吉田川”流域治水の取組】 姥ヶ沢地区　流域治水パトロール

姥ヶ沢雨水排水ポンプ及び県道16号道路嵩上箇所

【住民からのご意見】
・公共下水道事業により排水ポンプを3台、巳待田調節池2,500m³を増設、巳待田第2調節池14,300m³を新設した。
・県道16号の嵩上げにより、これより上流地域が浸水しやすくなった。

姥ヶ沢雨水排水ポンプ

巳待田調節池

巳待田第2調節池

県道16号道路嵩上箇所

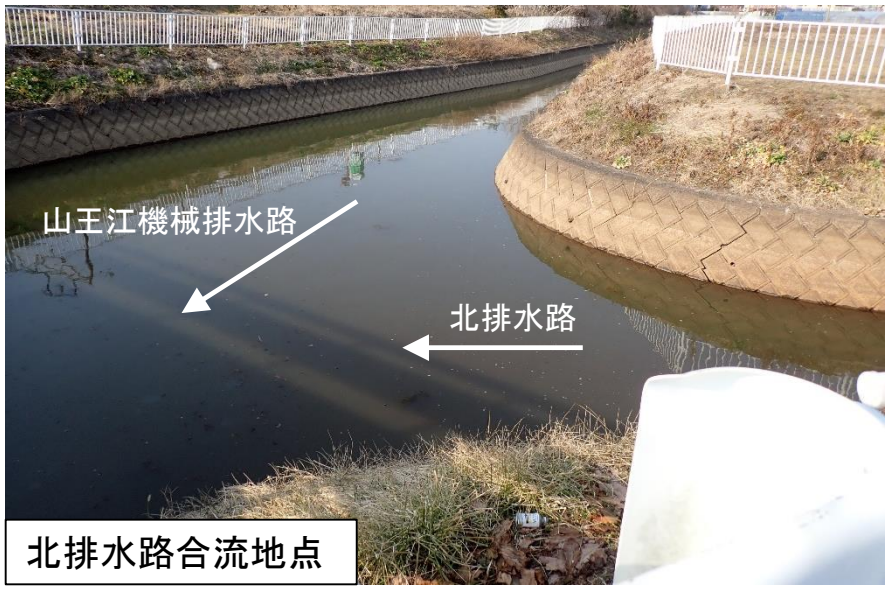
【“吉田川”流域治水の取組】 姥ヶ沢地区　流域治水パトロール

山王江機械排水路・山王江排水路

【住民からのご意見】
・山王江排水路から、逆流して山王江機械排水機場に流入している。
・姥ヶ沢地区下流の山王江機械排水路区間は、水面勾配が緩やかで水が流れにくい。今回視察を行った非灌漑期も水位が高く、水路が常時湛水している。
・山王江機械排水路より流れの強い北排水路との接続形状が悪く、山王江機排水路の流下能力が低下していると思われる。

山王江機械排水路

山王江排水路



北排水路合流地点

【“吉田川”流域治水の取組】 吉田川流域治水促進同盟会によるヤナギの芽刈り取り作業

- 吉田川左岸桧和田地区の住民で組織する「吉田川流域治水促進同盟会」は、河川の中に生えているヤナギの芽刈りを平成29年度より毎年実施。今年は3月5日に実施し、64名が参加。
- （会長のコメント）桧和田地区は、吉田川の氾濫被害の脅威にさらされている。平成27年度の関東・東北豪雨のあと、国が河道掘削を行ってくれたが、その後、ヤナギが繁茂してきた。大きくなって洪水時の水の流れを妨げないよう、地区の住民で話し合い、ヤナギが小さいうちに芽刈りを行っている。地区を”みず”から守る取り組みをできるところから実践している。

令和５年２月７日

北上川下流河川事務所

鳴瀬出張所長　柿　崎　憲　勝　　殿

大和町落合桧和田地区

吉田川流域治水促進同盟会

会　長　　瀬　戸　啓　一

吉田川流域治水促進同盟会長之印

吉田川におけるヤナギの芽刈り取り作業について

標記の件について、大和町落合桧和田地区として吉田川河道内のヤナギの芽を刈り取り、河川の維持管理にご協力いたしたく、下記日程で作業実施しますのでお届いたします。

記

大崎タイムス　3月11日(土)　6面　　昭和22年5月1

流域を〝みず〟から守る

吉田川　河川敷3キロで柳刈取り

【黒川支局】吉田川左岸に広がる大和町桧和田地区の住民でつくる「吉田川流域治水促進同盟会」（瀬戸啓一会長）が5日、河川敷から芽を出し始めたヤナギを刈り取り、洪水時に備えて水の流れを確保した。

同会によると、桧和田地区は吉田川沿岸の危険と隣り合わせにあり、「関東・東北豪雨（2015年）の教訓から国が河道を掘削。その後、ヤナギが繁茂する「治水対策は流域の全う『流域治水』に移行しつつある。住民による自発的な芽刈りは河道管理の点からも有意義」とし、感謝と敬意を表していた。

出水時に水の流れを妨げる恐れがあることから、芽吹きの季節に合わせて17年度から毎年刈り取っている。

この日は約60人が2時間ほどかけて河川敷約3キロを歩き、草刈り機で芽を刈り取っていった。瀬戸会長は「住民同士が話し合い、地区を〝みず〟から守る取り組みを実践していきたい」と話した。

国土交通省北上川下流河川事務所鳴瀬出張所の柿崎憲勝所長は「広大な河川敷で芽を刈り取る住民ら、関係者が協働で行ての

地域を“みず”から守る
～吉田川から全国へ～